

澤村 宏 小伝

Hiroshi Sawamura



澤村宏氏は、大正9年（1920年）7月京都帝国大学採鉱冶金科を卒業し、直ちに京都帝国大学工学部講師、同10年7月助教授、昭和8年3月教授に任ぜられ、冶金学第一講座を担当し、昭和33年京都大学を定年退官するまで鉄冶金学、鉄鋼材料学などの講義および研究を行い、冶金学の発展に貢献するとともに高潔な教育者として後進の育成に務め優れた人材を養成した。

また昭和37年4月より8年間関西鉄鋼短期大学（鉄鋼短期大学→現産業技術短期大学）学長として同大学の設立発展ならびに学生の育成指導に当たった。京都大学在任中には評議員、工学部長を歴任して大学の運営発展に尽力し、学外にあっては日本学術会議会員、科学技術庁科学技術審議会専門委員を務め、さらに日本鉄鋼協会会長、日本金属学会副会長など各種学協会役員として鉄鋼および金属の学術・技術の発展に貢献した。さらに氏は、日本学術振興会第19（製鋼）、24（鋳物）、54（製鉄）、70（貧鉄鉱処理）委員会委員として多数の研究報告を提出して指導的役割を果たし、とくに昭和29年より16年間第19委員会委員長在任中には、運営委員会を設け、当面する最重要研究課題を選定して、非金属介在物、製鋼反応およびオーステナイト結晶粒度の各協議会や微量元素懇談会等の分科組織を新設し、これらの産学協同による研究成果は戦後のわが国の鉄鋼技術水準の向上にきわめて大きく貢献し、第19委員会は飛躍的に発展をとげた。

氏の研究業績はきわめて多方面にわたるがその第一は鋳鉄に関する研究であり、白銑の黒鉛化に及ぼす種々の元素の影響に関する幾多の研究は、当時未解決であった白銑の黒鉛化機構に理論的解明を与えたものとして世界的に著名である。また、白銑等の黒鉛化時間短縮のための熱処理法、普通銑を原料とする低りん銑の製造法の開発、含チタン微細化共晶黒鉛鋳鉄、すなわちS-H鋳鉄や希土類元素を添加した耐酸高珪素鋳鉄の発明などがある。

次に製鉄製鋼の分野における研究には、製鉄製鋼反応に関する熱力学的研究を主体として鉄鉱石の前処理、銑鉄の脱硫等に関する研究、鉄鋼中のひ素に関する一連の研究、鋼の材質に及ぼす微量元素の影響に関する研究等きわめて多岐にわたっている。

氏はこれらの業績によって昭和53年日本学士院会員に推挙され、昭和60年本会の褒賞を授与されている。

昭和62年12月24日に逝去され、翌63年3月澤村家のご遺族により金1,000万円が日本鉄鋼協会に寄贈され、ご遺族の希望により澤村論文賞を設置した。